

じしょう ようちえん通信

vol.48

企画・編集：(株)ASO 2023



わあ～
うごいたあ！

とまった！

プログラミング

プログラムを使って、
ロボットを動かしてみよう



おもしろい！

たのしい！



うでいたー！



④「1秒動かすボタン」を押してみて動かかどうか試す。

Programming
Let's start!



① iPadを起動し、アイコンを並べ、マイプロジェクトを開く。



③ iPadに「1秒動かすボタン」「パワーボタン」「止まれボタン」を置く。

アイコンを
押しなからず……



つながったかな？

②レーシングカーのナンバーを入力し、iPadと無線でつなげる(ペアリング)。

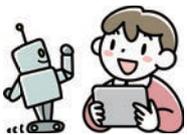
iPad の設定からはじめるよ



iPadは一人1台使います。大きなモニターを見ながら、アイコンを指で移動したり数字を入れたり、先生の話を聞き逃さないようにと真剣です。品川先生のほかに、サポートの先生が5人いるので、わからないところもすぐ聞いて安心。iPadとロボットをペアリングしてよいよスタートです。



いけいけ、がんばろー！



NSCC



年長 さんの プログラミング

子どもって好奇心のかたまり。
iPadでロボットを動かすなんて、すごい！
おもしろくって
もっと、もっと
やってみたくなる。



プログラミングってどんなことをするのか？

なんだか難しそう…、と思いながらの取材でしたが、子どもたちはなんと興味津々！

iPadの操作も違和感なくできるようになり、レーシングカーをボタン1つで自在に動かすおもしろさに眼を輝かせていました。 レポーター あきもとさちこ



論理的に考える習慣を 身につけてほしい



プログラミングで欠かせないのが、モノの仕組みを理解し、順序だてて考える『論理的思考』です。iPadの数字を変えてスピードを調整したり、方向や時間を変えてみるなど、試行錯誤しながら考えることも練習の1つ。論理的にモノをとらえる力は、将来的にも身につけてほしい能力です。(村中園長)



いいぞ、とまったあー

3・2・1、GOー!



7ゴールの青ライン2本の間に止まるように、パワーの数字を変えながら試してみる。



6スタートラインから走らせてみよう



5パワーボタンの数字を変える(進む距離・時間)



8モーションボタンセンサーを設定。車の前で手を上下するとスタートするよ。



9何度も走らせてみよう!



← 当日の様子の1コマが動画でご覧になれます。
<https://youtu.be/ID8GFdG3sgc>



あー 走った!

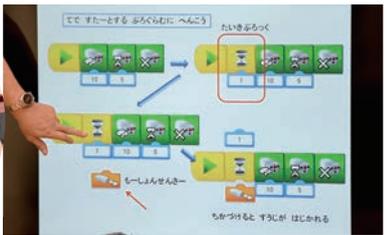
プログラミングのおもしろさって?

2本の青ラインの間に止まるよう、パワー(スピード)や時間(走らせる秒数)を考え、予想を立てて何度も試しました。走り出す車をじっと見つめ、ピタッと止まったときは飛び上がって喜び子どもたち。「iPadでロボットを動かせるんだ!と、楽しい以上の“興味”を持ち始めています」(担任)。あれこれ考えたことが成功するって、やっぱりうれしいですね。

ふれる、楽しい、おもしろいをイチバンに!



「正課はプログラミングのほんの入り口です。『プログラミングって楽しい!』と思ってもらえることをイチバンに考えています」と品川先生。毎回“できたあ!”という達成感を持つような流れ(内容)を工夫しているそうです。もっともっとやってみたいくなりそうですね。



やったあ!



子どものための制作 × プログラミング



プログラミングをもっと楽しみたいと思ったら

ロボット・プログラミング教室『ロボ団』

ロボ団のカリキュラムで学びます。

対象：年長「プレロボ」～小学生

※曜日・時間等詳しくは、幼稚園にお尋ねください。



楽しく!楽しく!をモットーに



品川先生

プログラミングではプロフェッショナルな先生です。ロボ団の指導もしています。

先の見えない不安やストレスを上手に乗り切る ママの心がラクになる3つのヒント



何かと落ち着かない日々が続く中、子育てを頑張っているママたち、本当におつかれさまです。でも、頑張っているからこそ、心がもよもやすこともきっとあるはず。今回はそんなママたちへのねぎらいの気持ちを込めて、心がほっとゆるんで元気がでるメッセージをお届けします。

お話／公認心理師・子育て相談室主宰 永瀬春美先生



先が見えない世の中。いろいろ不安です…

HINT 1 「きっと大丈夫」と自分に向かって
言ってみて



コロナ禍が長引く中、それまでの「普通」とは違う環境での子育て。お母さんたちがいろいろ不安になるのは無理もないことです。でも、子どもって大人が考えるより意外に柔軟でたくましいもの。「マスク姿で赤ちゃんに笑いかけたら、赤ちゃんはにこっと笑顔を返してくれた」という話を聞くと、子どもは相手の口元が見えなくても、さまざまな方法で情報を補って表情を読む力があるのかなと感心します。

先にならないとわからないことはあるけれど、子どもたちの育つ力を信じて、今は今できることを精いっぱいしていけばいい。私はそんなふうには思っています。

どんな時代であっても、子どもにとっていちばん大切なことは「安心を感じられる大人がそばにいてくれること」です。3.11の震災のとき、子どもたちと避難をしていたある保育士さんは「先生がいるから大丈夫だよ」「何があっても先生が守るからね」と言い続けたそうです。本当は自分もすごく怖くて、子どもを守り切れるのか不安でいっぱいだったけれど、と。

いろいろ不安になったときは、「不安だよ。でも、きっと大丈夫」と自分に語りかけてみませんか？

子どもにやさしくできないと落ち込みます…

HINT 2 「自分の限界を超えて頑張らない」
を大切に



子どもにイライラしてしまうのが悩みというお母さん、多いですね。「余裕があるときはゆったり子どもに付き合えるんだけど、余裕がないとついカッとなってしまふ」という話をよく聞きます。そうですね。余裕があればできる。それなら、積極的に余裕を作る工夫をしませんか？

ごはんは手作りじゃなくてもいいし、掃除だって毎日でなくてもいい。もちろん片付いていないとイヤとか、ごはんはどうしても手作りとか、人それぞれこだわりはあると思うので、

「自分はどこなら許せるか」をまずは考えてみましょう。

SNSで素敵なママを見て落ち込む？ でも、あれはその人の素敵な一瞬を切り取ったもの。そこだけを見て、「私はダメ」と落ち込む必要はないですよ。人はみんな得意不得意も違えば、体力も気力も違うので、誰かと同じようにできなくていい、「私は私」でいいんです。

「人それぞれ。私は私」「自分の限界を超えて頑張らなくてもいい」ということを、言葉ではなく親の生き方として子どもに見せてあげてほしい。そうすれば、子どももきっと「頑張ることも、ほどほどに力を抜くこともできる人」「ちゃんと自分を守れる人」に育っていくと思います。

つらくても「助けて」と言えません…

HINT 3 あきらめないで何度でも。
わかってくれる人に出会うまで



「つらいときは一人で抱えずに誰かに相談して」とよく耳にしますが、「相談したけど無駄だった。かえって傷ついた」といった声を聞くこともよくあります。勇気を出してSOSを出したのに、全然わかってもらえなければ「二度と相談なんかしない」と思ってしまう。それはそうですよね。

けれども、どうかそこであきらめないで、別の人に助けを求めてみてほしい。わかってくれる人に出会えるまでチャレンジしてみてくださいね。

この人がダメでも次の人、近くの相談室がダメならオンライン相談…とねばりづよく頑張ってみて、その結果「わかってくれる人に出会えた！よかった！」という経験を持てたら、わが子にも「大丈夫。きっとあなたをわかってくれる人に出会えるから」と自信をもって語れますよね。

やがては自立してゆく子どもたちには、「困りごとを一人で抱えず、助けてと言える人」になってほしいもの。そのためにも、周りの大人が上手に人に相談したり頼ったりする姿を幼いころから見せてあげてほしいなと思います。

取材・文／中島恵理子



永瀬春美 Harumi Nagase

千葉大学教育学部(看護)卒。東京学芸大学大学院教育学研究科(学校保健学)修了。公認心理師。養護教諭、大学・専門学校の講師、電話相談員等を経て、現在はNPO法人子育てひろばほほわ顧問、「子育て相談室いっほ、いっほ」主宰として、子育て中のママやパパ、それを支える人たちを応援する活動を続けている。

HP(<https://kosodate-soudan.net/>)ではメール相談(無料)も受け付けています。➔

